

..... 編集後記

◆ 2月を迎えました。節分、そして立春です。暦の上では春が始まりますが、まだまだ寒い季節です。暖かい春が待ち遠しく思う昨今です。さて、今月号は一般記事7編による構成となっています。いずれも読み応えのある興味深い記事が満載です。じっくりと読んでいただけましたでしょうか。

◆ 現在では大学の地質学教室でも、フィールド調査を主体的に教えるところが少なくなりました。しかし、フィールド調査は地質学の基本です。その調査手法・技術は、師から弟子へ、先輩から後輩へといつまでも引き継がれていく必要があります。今回、タービダイト研究の第一人者ともいえる徳橋氏に、このようなフィールド調査の独特な手法を伝授して頂きました。テフラ鍵層を積極的に活用した地質調査から層序学的・堆積学的の研究を行う一例として、房総半島に適用した例を示していますが、如何でしたか。口絵にも示されていますが、正確かつ詳細に調査されている様子が誌面からにじみ出てきます。タービダイトにご興味を持たれた読者は、本誌や書籍がありますので、さらにそちらをお読み下さい。

◆ 続いては、これまで何度か本誌に掲載している、海洋プレート-スラブの斜め沈み込みに関する簡易な幾何学モデルと数値シミュレーション手法を用いて火山・地熱活動を検討した茂野氏による報告の続きで、今回はこれらの補足的な研究結果の紹介です。スラブ沈み込みの急傾斜化によってどのようなようになったかを、琉球弧・西南日本弧でモデル化して示していますが、如何でしたか。あわせて、関連する本誌646-648, 656, 664号等をじっくりとお読み下さい。

◆ 縄文時代の集落の盛衰を、当時の環境変化とあわ

せて検討した川幡氏の記事では、環境の変化、特に気候変動が人類の盛衰にも影響を与えると警鐘を鳴らしており、今後の地球環境問題を考えていく上で参考になります。皆さんはどのように捉えられたでしょうか。一人一人が環境の保持・共生を思いやる必要があります。その結果は私達にいつか必ず跳ね返ってくるということを教えている気がします。

◆ 高橋氏による海外における地球科学関連の話題紹介は如何でしたか。今回は鉱物資源、地震予知研究、バイカル散策など多彩な話題でしたが、地震に関しては常に関心の高いことです。先月は兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)からちょうど15周年、折しもハイチでの大震災が起きたばかりです。一刻も早い被災地の復興を望むと共に、世界的な地震対策に関する研究の一層の進展が望まれます。

◆ 昨年岡山県で地質情報展が開催されましたが、これを機に岡山県の地史を武智氏に紹介して頂きました。多くの化石が産出するという事で、まさに岡山県の名所・名物を見ているような感じがします。

◆ 続いて、標本館で開催されたイベントの中から、昨年「地質の日」イベントの一つとして開催された野外観察会の様子を、中島氏ほかを紹介しています。化石採取のほかに野外実験も加え、大地と時間の大きな動きを考えていただけるようにプログラムを計画したとのことで、その苦勞が伝わってきます。参加者の理解もさらに深まったことでしょう。

◆ 最後は竹内氏による書評で、日本の地質を紹介した書籍の分かりやすい紹介文となっております。

◆ 来月号は、地質地盤情報に関する特集記事を予定しております。ご期待下さい。(金井 豊)

地質ニュース編集委員会

委員長：金井 豊

事務局委員：宮内 渉

委員：重松紀生・杉原光彦・中嶋 健・森尻理恵・七山 太・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース	第666号	2010年	2月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
2010年2月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

© 2010 Geological Survey of Japan